

【他職種理解】のための法人内勉強会実施（看護師・作業療法士）

今月は法人内勉強会【他職種理解①】を行い、看護師と作業療法士をテーマにスタッフ間で言葉を交わしました。看護師は、「療養上の世話」「診療の補助」が法的に明記された役割であること、精神科訪問看護は、医療上の援助・日常生活上の指導と援助・将来に関する相談・家族支援・トラブル時の対応などが役割であることを参考書において確認することができました。ヨハクの看護師達からは、「利用者の気持ちにできる限り寄り添い・より良い生活を送れるよう伴走者になる」「地域で本人達の困っていることを支えたい」「看護師としての『これ』といったものはなく、相手に合わせて変容すること」などが看護観として語られました。作業療法士は、法人理事の長廻が講義を行いました。作業療法の作業とは、「日常生活活動、家事、仕事、趣味、遊び、対人交流、休養等、人が営む生活行為とそれを行うのに必要な心身の活動が含まれる。作業には人々ができるようになりたいこと、できる必要があること、できることが期待されていることなど、個人的な目的や価値が含まれる」ことを教示していただきました。このことから、地域で暮らす方々にとって作業療法士が力になれることは多く、法人の理念である、【らしさ Discovery、じぶん Expansion】はまさに作業療法の意味が内包されていることが共有されました。今回の勉強会から、それぞれの職種が大切にしている価値観の先には共通の景色があるのではないかと感じました。アプローチの手段が異なるからこそ、他職種でチームを組み、協働することの意義が生まれると考えます。一方、今回の機会で分かったことは、チームとして協働しているが、互いの職種について理解が浅かったことです。このように日々の実践を振り返り、お互いの理解を深める機会の重要性も再認識しました。来月は社会福祉士・相談支援専門員について、学んでいく予定です。

麺処はなぶさ

川越市駅近くにあるつけ麺のお店です。量がとても多く、満足度の高いつけ麺が特徴的でした。皆様も良かったら行ってみてください。（普通サイズでも多いのでご注意を）



月刊みんなねっとリレー対談

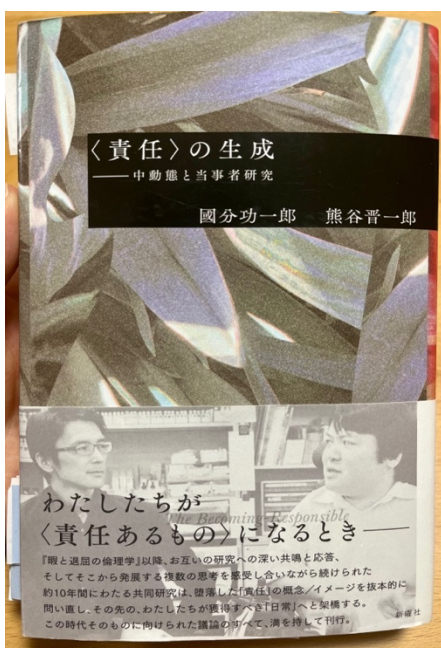
みんなねっと（全国精神保健福祉社会連合会）とは、2006年に精神障がいがある人の家族が結成した全国組織です。活動内容は①医療・福祉制度などの施策をよくするための活動②「月刊みんなねっと」を発行し情報を伝える活動③精神障がいについて啓発・普及をすすめる活動④相談を通して家族と当事者を支援する活動⑤全国組織を運営する活動があります。その活動のなかの、②「月刊みんなねっと」があり、リレー対談企画に関わらせていただきました。対談相手は国立精神医療研究センター病院（東京都小平市）ACTチームに所属する作業療法士 佐藤朋恵様。内容としては、「なぜ法人を立ち上げたのか」「法人が目指すものは何なのか」「自分たちの立場で感じる葛藤や模索」等々、濃密なものとなっています。来年1月号（予定）に掲載予定です。是非興味を持って頂けたら幸いです。

オススメ Book

責任の生成 — 中動態と当事者研究

（著）國分功一郎 熊谷晋一郎

責任・意思・選択は区別され、問題の原因を誰かの意思に帰属させることにアンチテーゼを唱えています。私たちは私たちが思っている以上に意思が何かを分かっているし、当事者を孤立に選択させることを強いていないか、を考えさせられました。私たちの立場で重要なのは「意思決定支援」でなく「欲望形成支援」と示唆を与えていただきました。



輪読会のご案内

毎週金曜日 18:00～ヨハク事務所にて輪読会を行います。テーマは『中動態の世界—意思と責任の考古学—』（著 國分功一郎）です。本を持っていなくても問題ありません。興味関心のある方はご連絡ください。

みんなねっとホームページ

<https://seishinhoken.jp>